



ぶっく ばらんす2号

2020年

発行年月／2020年3月 design & illustration WHITE-SHIPS

【編集・発行】

公益財団法人 新潟県女性財団

〒950-0994 新潟県新潟市中央区上所2丁目2番

新潟ユニゾンプラザ2F／新潟県女性センター

TEL 025-285-6610/FAX 025-285-6630

E-mail npwf@npwf.jp



新潟県女性財団



新潟県女性財団ホームページ

<https://npwf.jp>

●「ぶっくばらんす」は、(公財)新潟県女性財団が発行する男女共同参画ハンドブックシリーズです。



だって、おとこだから？



「ぼくのお父さん」

もとや小学校3年2組の教室。
今日は「家族について」の作文を
クラス全員で発表する日です。

先生は宿題を出す時に
「家族全員のことを書かなくていいからね。
1番書きたいと思う人でいいよ。先生だったら、
犬のジョンのことを書こうかな～」
と言って笑いました。

りゅうせい
龍勢は誰にしようか迷いましたが、
大好きなお父さんのことを作文に書きました。



ぼくのお父さんは強くて、力持ちで力ツコ
いいです。この前もいとこの家の引っ越しを
手伝った時、つくれを一人で運んでいました。
ぼくもやってみたけどぜんぜん動かないし、
すぐ手がいたくなり泣いてしまいました。
そしたらお父さんに「男なんだから泣くな。」
と言われました。ぼくもお父さんみたいに強
い男になりたいです。

あと、お父さんはお仕事で出ちように行く
時、いつもぼくに「男はお前ひとりなんだか
ら、ママたちをしつかり守るんだぞ。」と言いま
す。ママの方が大人なのに、「なんで?」
と聞いたら、「男は女を守つてあげなきゃダメ
なんだぞ。」と教えてくれました。ママはお
こるとごわいけど、ぼくは男だからちゃんと
守つてあげようと思いました。



だつて、おどこだから。

近所の家の前を通るとき、いつもジョンが吠ほえる。だから、オレは妹を守つてやるんだ。

一つ、困っている人を助ける。



一つ、大きな声で挨拶する。

大きな声で挨拶するのは、元気の証拠。

声の大きさは負けないぞ!!



朝からご飯をもりもり食べて、お父さんみたいに大きくなつて、強くなるんだ!!

一つ、ご飯をたくさん食べる。



今日は晴れ。

昼休みに男子全員で野球をやろうって、グラウンドに行こうとしたんだ。

みんな外に出たのに、ハルトは座つてた。

・・・聞こえなかったのかな?

「ハルト! 野球やろうよ!」

「男子みんなでやってるぞ」って誘った。

まだ、ハルトは座ってる。

「早くいこうぜ!」って、腕をひっぱつた。

そしたら、

ハルトが顔を真っ赤にして怒った。

「やだよ! 離せよ! 野球なんかやらないよ。

読みたい本があるんだから」

・・・なんだよ!

怒らなくてもいいじゃないか。ちえつ。



そして、その夜・・・



父 今日もみんなに大きな声で「おはよう！」って
あいさつしたか？
龍勢 うん。教室に入ったら大声で言ったよ！
父 よしっ、エラいぞ！

—— 龍勢が昼休みの出来事を話しあげた。

父 そつかあ。
ちゃんと友だち誘ったんだな。
龍勢 でも、ハルトは怒ったんだ。
本を読みたいんだってさ。
野球のほうがオモシロイのにね。
父 そうだな。
男は外で元気に遊ぶもんだぞ。
龍勢 うん！



龍勢は、昨日と同じようにハルトを誘いました。
でも、また怒らせてしまいました。
自分は何か悪いことをしているのかなあ・・・。
ハルトの悲しそうな表情が気になるようです。

龍勢 なんでかなあ？
 どうしたんだい？
龍勢 えっ、マジ！？
カメレオンがしゃべった？
 びっくりさせて悪かったペロ。
わたしは、アントニオって言うんだ。
毎日3年2組のみんなを見ているんだよ。

龍勢 ハルトは何で怒ったんだろう？
男子は外で遊ぶのがフツーだろう？
 それがフツーだと思うんだね。
龍勢 男は外で元気に遊ぶもんだって、
お父さんが言ってたもん。
カラダを鍛えて強くなるんだ。
そっちの方がカッコイイじゃん。
 男は強くなきゃダメだと思ってるんだね。
どんな男がカッコイイと思うの？

次の日の昼休み



龍勢 声が大きくて、足が速くて、強くて、
ごはんいっぱい食べて、
転んでも泣かない、絶対に泣かない。
 ふむふむ、それから？

龍勢 うへん。
強くて、悪いやつをやっつけて、
怖くても泣かない。

 本当に泣かないの？
龍勢 ・・・。
あ、オレ泣いた・・・。
 男だって泣くよね。
ハルトは、なんで怒ったんだろうね？



男だから…って思わず言っちゃったことありませんか？

「男の勲章？」

息子が自転車で遊んでいるうちに、転んで、顔をすりむいて帰ってきた。痛がっているのに「大丈夫！ 痛くない、痛くない！ **男の勲章**だよ」と言ってしまった。



「男は稼いでなんぼ？」

テスト中でも全然勉強しない息子。「ちゃんと勉強しろ！ しっかり勉強して、いい大学に入らないと、いい会社に行けないぞ。**男は一生、稼がなきゃいけないんだから**」と言ってしまった。



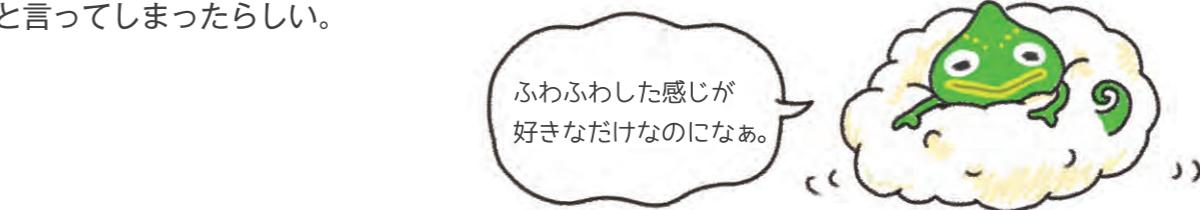
「男の子はつまんない？」

公園でママ友とおしゃべりしていたら、「**男の子は洋服にお金がかからなくていいわねー**」って。男の子の着るものは、色もデザインも少なくて・・・。ブランドといえばスポーツ系。**男の子の服は、選べなくてつまんない！**



「男のくせに？」

甥っ子はふわふわしたぬいぐるみが大好き。私も喜ぶ顔見たさに、ついおみやげで買ってしまう。でも、甥っ子の母は「こんなことで大丈夫かと不安になってしまふ」と言う。大事そうにぬいぐるみに触っている姿を見て、つい「もういいかげんにしなさい！ **男のくせに**」と言ってしまったらしい。



「男の子は力持ち？」



音楽発表会の準備をしています。「木琴」「鍵盤ハーモニカ」「小太鼓」「リコーダー」「シンバル」次々、運んでいきます。そんな中、大きくて重い「大太鼓」だけが残っています。担任である私は、男子に向かって「**男子～、大太鼓運んで～。力持ちでしょ！！**」と思わず言ってしまいました。



視点

「男らしさ」の向こう側

加藤秀一（明治学院大学社会学部教授）

「男らしさ」とはどんなことを指すのでしょうか。たいていのアンケート調査では、女性に期待される特質としては「優しい」「気配り」「かわいい」などが、男性については「行動力」「リーダーシップ」「強い」などが上位を占めています。男らしさ／男性性の観念は、自分が他人の上に立ち、ときには力で打ち負かすようなイメージと結びついています。

こうした力強さ自体は必ずしも悪いものではないでしょう。正義を守るために、他人を救うために命がけで戦うウルトラマンに、幼い私も憧れたものです。ラグビーのようなスポーツにおける正々堂々とした戦いは、選手にも観客にもカタルシスを与えます。

しかし、男らしさとしての「強さ」が強調されるとき、他人を踏みにじる暴力や支配に転じてしまいがちであることも、残念ながら否定できません。それはDVや性暴力のような女性に対する攻撃や、「女みたい」「ホモっぽい」とされた男性に対するいじめや排除を生みだす要因になっているのです。

このような「有毒な男性性（トクシック・マスクьюリニティ）」は、どのようにしてつくられるのでしょうか？

まず確認しておきたいのは、男性がみんな生まれつき支配的で暴力的なわけではないということです。近ごろ流行の、男女の先天的な違いを誇張する「脳科学」なるものは、ほとんどが粗雑な偏見にすぎません（くわしくは、『Web ナショジオ』の記事「研究室に行ってみた。東京大学 認知神経科学・実験心理学 四本 裕子』をお読みください）。男らしさや女らしさと言われるのは、社会環境によってつくられる部分が大きいのです。

実際に性犯罪に走るには至らずとも、潜在的にそうした方向へと男たちを押しやる圧力は、社会全体に広がっています。敵を暴力でねじ伏せる映画やマンガの登場人物、過酷な競争の勝者である自分をナルシスティックに語るカリスマ経営者といったロールモデルが少年たちに与える影響は絶大です。身近な場面でも注意すべきことは無数にあります。たとえば、小学生の男の子が女の子の気を引こうとして嫌がらせをしているとき、周囲の大人が被害者である女の子に対して「あの子はあなたのことが好きなんだから、許してあげなさい」とどと言って我慢を強いることは、理不尽であるば



かりか、「有毒な男性性」を助長する行いであり、厳に慎まねばなりません。もちろん男の子を叱ればよいという単純な話ではなく、嫌がらせ行為は抑止した上で、誰かを好きになるという気持ちを認め、それを相手を傷つけないような形で伝えることの大切さを、その男の子にしっかり伝えるべきでしょう。

これは子どもに限った話ではありません。一般的に男性は、自分の感情を正確に言葉にして他人に伝えることが苦手だとされますが、それも生まれつきの弱点などではありません。「男は理性的で女は感情的」といった固定観念にとらわれ、他人との感情交流を学ぶ機会を奪われただけですから、自覚トレーニング次第で変えられる可能性は十分にあるのです。



ビートルズのジョン・レノンは、育児のために仕事を休むなど、フェミニスト男性の先駆者として知られていますが、元からそうだったわけではありません。若い頃の彼はどうしようもない粗野なマッチョだったといいます。それが大きく変わったのは、オノ・ヨーコというパートナーと出会ってからですが、実はそのずっと前から変化への模索は始まっていました。ビートルズ初期の名曲「ヘルプ」で、ジョンはすでに「若いときは他人なんか要らないと思っていたけど、今はそんな自信はない、あなたに助けてほしいんだ」と歌っていたのです。男も自分の弱さを認めること、そしてそのことに甘えもせず、かといって卑下もせず、身近な人々と気持ちを分かち合うこと——そこから、埃にまみれた「男らしさ」の向こう側が、透けて見えるように思えます。